

カンキツ新品種‘させぼ温州’の特性

高見寿隆・古川 忠・今村俊清・後田経雄¹⁾
(長崎県果樹試験場・¹⁾佐世保農業改良普及センター)Toshitaka TAKAMI, Tadashi FURUKAWA, Toshikiyo IMAMURA and Tsuneo USHIRODA:
Characteristics of New Citrus Cultivar ‘Sasebo-unshu’

長崎県果樹試験場では、温州ミカンの新系統の探索と長崎県への適応性についての調査を行っている。

これまでに‘原口早生’、‘岩崎早生’等の優良系統が選抜され、長崎県の経済品種として品種更新が図られミカン産業振興の牽引力となった。

近年、‘岩崎早生’‘原口早生’に続いて出荷できる系統として、新たに高糖度で良食味な‘させぼ温州’が選抜されて、県下で産地が形成されつつあるので、その品種特性について報告する。

1. 来歴および育成経過

1975年に長崎県佐世保市重尾町において、‘宮川早生’15年生樹から糖度が高く、着色が優れ、浮き皮の発生が少ない果実が着果する枝が発見された。地域では従来の温州ミカンに比べ品質が顕著に優れたため増殖を推進した。なお、増殖の過程でウイルスに罹病したため、1993年に長崎果樹試で茎頂培養によるウイルスの無毒化を行った。現在は無毒苗が県下全域へ配布されている。

2. 特性の概要

1) 樹体特性：枝の伸長は、苗木の育成過程では旺盛であるが、結実がはじまると伸長は抑えられ、わい性の傾向を示す。枝は直立性で、極めて密に発生し、節間が短い。葉は細く小型であるが、葉色が極めて濃く、葉肉が厚い。また、新しょうの硬化時期が早く、夏枝、秋枝

の発生が早くからみられる。苗木の育成過程では、根量が多い傾向にある。開花期は‘原口早生’とほぼ同時期で、着花量が多いが、生理落果は1次落果の早い時期にピークがみられ、落果量が多い傾向にある。果実の肥大は、‘原口早生’より緩慢に推移するが、成熟期には同等の肥大を示す。果皮の着色開始は、‘原口早生’より10日程遅く（10月10日頃）、11月20日頃に完全着色となる。長崎県では、成熟期は11月20～30日となる。他の温州ミカンに比べ、かいよう病にやや弱い傾向にある。

2) 果実特性：果実は110～120g程度で果形指数が131～139と温州ミカンの中では扁球形である。果皮は滑らかで、果皮色は橙色が濃く、浮き皮の発生が少ないので外観は良好である。8月上旬から成熟期まで透湿性シートで樹冠下を被覆し乾燥ストレスを与えると、果汁の屈折計示度が14%程度と極めて高くなる。ただし、若齢樹で着果負担が少ない場合や露地栽培下では、糖度は容易にあがらない。果汁の酸含量は、11月20日頃に1.0g/100ml以下になる。糖度の高い果実は、じょうのう膜も薄く食味は良好である。

以上のことから、‘させぼ温州’は、シートマルチ栽培により、既存の品種に比べ、高糖度になりやすい中生系統として期待される。また、既存品種にない樹体特性をもつことから、遺伝資源としても興味深い。

第1表 カンキツ新品種‘させぼ温州’の樹体特性（1998～2000年）

品 種	樹 勢	枝条の粗密性	枝しょう節間の長さ (mm)	個葉の面積 (cm ²)	葉肉の厚さ (mm)	葉色 ^{c)}	根量 ^{d)} (g)
させぼ温州	強 直立	密	13.6	14.0	0.40	3.30	17.9
原口早生(対照)	中 中	中	19.2	20.6	0.32	2.71	9.1

注) a) 葉長と葉幅の積と葉面積との関係式を求め測定
‘させぼ温州’ $y=0.443x$ 、‘原口早生’ $y=0.6559x$
b) 富士平工業社製 農業用厚さ計による測定
c) 富士平工業社製 クロロフィルテスターによる測定
d) 主幹の南側で、主幹から1 m離れた土壌を30cm×30cm×20cm(深さ)堀上げて根量を測定

第2表 カンキツ新品種‘させぼ温州’のシートマルチ栽培における果実品質（1998～2000年の平均値、11月20日調査）

品 種 ^{a)}	1果平均重 (g)	果形指数	屈折計示度 (%)	酸含量 (g/100mL)	糖酸比	果皮色 ^{b)}	浮き皮 ^{c)}
させぼ温州 I	110	139	14.1	1.01	14.4	0.57	5.5
させぼ温州 II	123	131	14.0	1.13	13.1	0.56	5.4
させぼ温州 III	143	132	11.8	0.96	12.4	0.54	10.4
原口早生(対照)	124	131	11.5	0.76	14.3	0.52	21.8

注) a) させぼ温州 I；高接ぎ5年目、II；高接ぎ12年目、III；7年生原口早生；9年生
b) ミノルタ色計測機器（CR200）による橙色の濃さを示す値で、a/b値で表した
c) 無（0）、軽（1）、中（2）、甚（3）の4段階の判定
発生度 = $\frac{\sum(\text{発生程度別果数} \times \text{発生指数})}{3 \times \text{調査果数}} \times 100$



写真1 ‘させぼ温州’の結実状態